

3.11 あの日 の教訓、胸に

市では、平成25年度の市総合防災訓練を6月9日、市消防防災センターを会場に開催しました。今年は登米町を重点地域に指定。登米町内の自主防災組織のほか、市内外の企業・団体から約340人が参加しました。

訓練の冒頭あいさつした布施孝尚市長は「東日本大震災の教訓に、一人一人の防災意識が高まっている今こそ地域防災力の向上を図る絶好の機会。訓練で習得したことを地域に持ち帰り、実情に合わせた防災対策に取り組んでい

だきたい」と述べました。訓練では5、6人のグループに分かれ、初期消火や応急救護、指定避難所の運営訓練などを実施。自主防災組織役員による初動活動の図上訓練も行われ、それぞれ真剣な表情で訓練に参加していました。



自主防災組織役員らによる災害時の初動体制を話し合う図上訓練。地区内の安否確認や食糧・物資の調達、役割分担などを話し合いました



消火器を使用した初期消火訓練。有効に活用すれば、延焼を最小限に食い止めたり、自分たちの逃げ道を確保したりするのに威力を発揮します



指定避難所開設初期の運営を話し合う図上訓練。部屋の使用方法や食糧の配分、ベットの受け入れなど、想定される問題などについて意見を出し合いました



身近にある手ぬぐいやラップを使用し、たけが人の応急救護訓練。知っている、いざという時に役立ちます



市消防署出張所の指導を受けながら、消火訓練をする中田中の生徒たち

中田中学校でも総合防災訓練 地域と連携 600人参加

中田中学校（工藤輝雄校長、生徒数510人）では、5月27日に総合防災訓練を実施しました。今年の防災訓練は、近隣の蓬原区の住民、さくら幼稚園の園児・教諭などと協力、総勢約600人が参加しました。訓練では、消防署東出張所の署員の指導を受けながら、消火や救護活動、煙道体験などを実施しました。

中田で防災教育の責任者 同中で防災教育の責任者

を務める菅原栄夫主幹教諭は「東日本大震災を経験した今、これからは学校だけでなく地域防災にも視野を広げ、地域に根差した防災教育を進めることが重要」と訓練の狙いを強調。防災主任の田口勇介教諭も「どんな状況でも冷静に行動する実践力を訓練や学習を通じて生徒たちに身に付けさせたい」と話していました。



登米町婦人防火クラブの皆さんによる炊き出し訓練も実施。災害時備蓄食糧なども活用し、手早く多くの食糧を供給します



荒井 いづみ さん（登米町・金沢山） ※いづみさん（左）と娘の夢姫さん

参加者の声
消火器を使った初期消火、指定避難所の運営、応急手当訓練を体験しました。特に応急手当訓練では、家にある物を活用できることが分かり、勉強になりました。娘（夢姫さん・登米小5年）と一緒に参加できてよかったです。